

伊那市農業振興センターだより

運営委員長 原 一馬

☆今年を振り返って☆

春先の気温は平年並みで推移し、農作物の生育は概ね順調なスタートとなりました。

一方、6月下旬には梅雨が明けてしまったことから夏が長く、7月～8月にかけては記録的な小雨となり、平均気温が統計開始以降の最高記録を更新する顕著な高温となり、各品目とも減収や品質低下等の影響を受けました。



そうした中、水稻作況反収指数は全国102、長野県103、南信は104と公表され10a当たりの予想収量は全国547kg、長野県622kg、南信645kg[10/25現在]が見込まれています。（1.70mmのふるい目幅ベース）

＊作況反収指数 直近5年間で最も収量が多かった年と少なかった年を除く3年間で平均値を取り、当年産の収量と比べて指数化したもの。

米価は一昨年からの供給不足、インバウンド需要の増加等を背景に業者間の集荷競争が激化し、新米価格は過去にない高価格となり、農業収支の改善が図られた年となりました。

しかし、国は米価高騰対策として備蓄米の放出、民間企業では安価な輸入米の調達、生産現場では米価高騰を受け、転作作物から主食用米への転換等で主食用米の流通量が拡大したことから需給バランス緩和の見方もあり、今後の受給動向が気になるところです。

10月に新政権が発足し、米政策が増産から需要に応じた適正生産に転換がされました。又、令和9年から農業の構造転換を集中的に進めるべく「新たな水田政策」が示されますが国の諸施策が持続可能で多様な担い手が安心して農業経営を続けられるような政策となるか注視が必要です。

農業者の高齢化、基幹的農業従事者の減少、耕作放棄地の増加、貿易自由化による競争激化等農業を取り巻く環境は厳しさが増し、このまま農業者が減り続ければ国内の米需要量を国産で賄いきれないとも言われています。

地球沸騰化の時代と呼ばれる昨今、気候は目まぐるしく変動し、降れば水害、晴れば猛暑干ばつ、と世界中が極端な自然災害に見舞われ、農業者の苦労は絶えません。一年一作の農業、1年の苦労が収穫の喜びで報われ、農業者の懐が潤い、営農意欲が湧く、そんな午年（2026年）になる事をお祈り致します。

降雪からの農業用施設及び農作物等の被害防止対策（農業用ハウス等）

- ・耐雪補強として、中柱、筋かい等を設置する。
- ・加温設備のあるハウスでは雪の降り始めから加温し、内張りカーテンを開け、上部の融雪を早めに行う。（燃料切れとならないよう残量の確認を）
- ・加温設備のないハウスでは、ジェットヒーターや複数のストーブで加温する。（周囲に燃えやすい物を置かない等、火災防止に注意）
- ・屋根部の積雪量が多い時は、早めに除雪する。（2人以上で作業を行う等、安全確保を図って下さい）

熊による農業被害対策に取り組みましょう

連日、熊による被害がメディアで報道されておりますが長野県内でも熊の目撃情報が多数確認されています。私たちの生活を守るために、一人ひとりの力を合わせ地域で協力して熊による農業被害を予防しましょう。

♣ 熊による農業被害を防ぐための取り組み ♣

(1) 収穫残渣物を処分しましょう

熊は果実や野菜が好物です。熊を呼び寄せないためにも収穫後はすみやかに畑に残っている農作物を片付けましょう。また、生ごみも放置しないようにしましょう。

(2) 定期的に藪の草刈りや刈り払いを行いましょう

熊は茂みや藪を住处や移動経路として利用します。熊が近づかないように、定期的に草刈りや刈り払いをして見通しをよくしておきましょう。

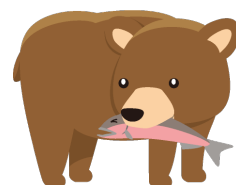
(3) 電気柵を設置しましょう

熊は力が強く、器用なので金属製の柵では侵入されてしまいます。農作物を守るためにも電気柵を設置し適切な管理を行いましょう。

※熊に「冬は通れる」と学習させないように冬場でも電気を流しましょう。

(4) 農作業中の熊被害に注意しましょう

果樹の剪定作業が始まります。特に山際の園地で作業を行う場合は鈴を鳴らしたり、ラジオを付ける等、音の出る物を携帯し熊に人間の存在を知らせましょう。



農地の貸借の利用権設定について

農地の貸借は、まず貸付人（所有者）と借受人（耕作者）により、条件等を整えていただく必要があります。手続きは、「農地中間管理事業」の貸借をお勧めしています。

窓口は、農業委員会事務局で行います。

令和8年度の営農計画書を検討する時季が来ました。

「人・農地」にかかわる相談がありましたら、地区担当の農業委員または農業委員会事務局へご相談ください。電話 78-4111（内線2860～2862）

認定農業者の皆様へ

長野県農業再生協議会より年2回発行されていましたが、担い手情報誌「担い手・農地だより」は本年度より電子ファイルでの配信に変更されました。

本誌をご活用される場合は、下記のホームページをご覧ください。

「長野県農業再生協議会 担い手農地部会」

発行：伊那市農業振興センター事務局（伊那市役所農政課内）電話 78-4111 内線 2422